

## 平成 28 年度 第 4 回講演会 記録

|     |                                        |
|-----|----------------------------------------|
| 日 時 | 平成 28 年 5 月 28 日 (土) 13:00~16:00       |
| 会 場 | 此花会館 梅香殿                               |
| 講 師 | 信濃町立 野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長 近藤 洋一 先生          |
| 演 題 | 象がいた湖「野尻湖」の自然と文化                       |
| 備 考 | 参加者数 161 名 (会員 146 名、非会員 15 名) 記録 山野 渉 |

先生は学生時代から野尻湖発掘に携わり、信州大学院博士課程修了後野尻湖ナウマンゾウ博物館開館当初から学芸員として勤務、2016 年から館長に就任、また野尻湖発掘調査団の事務局も担当し、ナウマンゾウ一筋の人生を送って来られました。



## 【講演要旨】

## 1. 野尻湖とナウマンゾウについて

飯綱山・黒姫山・妙高山・斑尾山の火山が噴火し、その山々に囲まれた場所に生れた湖が野尻湖である。野尻湖近郊で旅館の主人がゾウの歯を見つけたのが最初の発見で、その周辺から多種の化石が発掘されている。そのなかでもナウマンゾウの化石が大半を占めている。

## 2. ナウマンゾウ化石の特徴

ベレー帽をかぶったような出っ張りのある頭をしている。牙が曲がっている。耳が小さい。前足は 5 つの爪があり後ろ足は 4 つの爪がある。

## 3. ナウマンゾウがいた??

長野県では長野市、中野市、上田市、小諸市、佐久市などの千曲川沿いでもナウマンゾウの化石が発掘されており「ゾウの道」があったと言われている。

## 4. 動植物の化石発掘

野尻湖周辺では「ヘラジカ」の化石が見つかりこの「ヘラジカ」はシベリアなどの寒いところに住んでいる動物であるため、この時期の気候は寒かった。トウヒ・ヨモギの花粉が見つかったことから林があり、また 珪藻・虫の化石・貝(ヨコハマシジミガイ)なども見つかったことからこの地域は寒い⇔暖かいを繰り返した気候変動があったと考えられる。

ナウマンゾウは 3.5 億年前 中国から日本列島にきて以来、日本列島で日本的な進化を遂げ、絶滅したと思われる。

## 5. 野尻湖周辺の古環境

何億年か前に生じたいろいろな事象(気候変動と地層変化など)を調べるため、化石周辺の砂・地質調査を行ない、徐々に明確な事実が生まれているが、まだまだわからないことがたくさんある。

## 【所感】

ナウマンゾウがどのようなものを食べていたのか、どのように生きていたのか、また人との関わり合いがどうであったかなどの想像を巡らせて発掘を進めていくことにより、想像していたものが現実化する楽しみがある。また新しい発掘を通じ、子供たちが将来考古学者や人類学者になりたいと思ってくれることを願っておられる先生の思いに共感しました。